

お薦めの書籍

木下大輔

2021 年 01 月 06 日

横浜在住の中村さんとオーストラリア在住の室井さんの推薦する書籍を紹介します。「冬休みに日本語の本を読んでみたい」と思っている人は参考にしてください。本の内容について、中村さんや室井さんにもっと詳しく聞いてみたい、という人は連絡をください。

1 中村さん推薦の書

中村さんと中村夫人の推薦する書は以下のものです。

- 「季節のかたみ」

- 著者: 幸田文
- 出版社: 講談社
- ISBN: 978-4-06-263264-5
- <https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000197352>

「言葉は、その国の人々の気質・性格を写す鏡だと思います。少し難しいですが、昔の日本人が持っていた感受性（自然や物や人によって、心の中に生じる気持ち。情緒とも）を感じてもらえればと思います。」（中村）

- 「『空気』の研究」

- 著者: 山本七平
- 出版社: 文藝春秋
- ISBN: 978-4167306038
- <https://books.bunshun.jp/ud/book/num/9784167911997>

「日本人という集団は時に、集団として非合理的な判断をする国民性を持っています。本人たちは論理的に結論にたどり着いているのですが、その論理は非科学的なのです。この書は、そんな日本人を鋭く分析した本です。国際性とは、言葉を知ることではありません。日本語を通して、日本人という傾向を掴んでみてはいかがでしょうか。」（中村）

- 「だれが原子をみたか」

- 著者: 江沢洋
- 出版社: 岩波書店
- ISBN: 978-4006002817
- <https://www.iwanami.co.jp/book/b255912.html>

「科学とは知識の集積ではありません。知識に構造を与えるものです。構造とは論理の繋がりで、この書は、身近な経験から、いかにして人は原子の存在を信じるに至ったかを平易に書き起こした書です。科学的知識を得るだけでなく、科学的知識を得る方法にも、目を向けてみてはいかがでしょうか。」（中村）

- 「西の魔女が死んだ」

- 著者: 梨木香歩
- 出版社: 新潮社
- ISBN: 978-4-10-125332-9
- <https://www.shinchosha.co.jp/book/125332/>

「不登校の少女が、祖母との対話を通して自分らしさを取り戻していくお話。自然を活かした古風な生活ぶりが新鮮。」(中村夫人)

- 「舟を編む」

- 著者: 三浦しをん
- 出版社: 光文社
- ISBN: 978-4-334-92776-9
- <https://www.kobunsha.com/shelf/book/isbn/9784334927769>

「辞書を作り上げるまでの人間模様を描いたお話。言葉に向ける情熱と執念が素晴らしい。」(中村夫人)

- 「終末のフール」

- 著者: 伊坂幸太郎
- 出版社: 集英社
- ISBN: 978-4-08-746443-6
- <https://books.shueisha.co.jp/items/contents.html?isbn=978-4-08-746443-6>

「8年後に小惑星が衝突し、地球は滅亡すると予告されてから5年が過ぎた世界の話。全人類が余命3年を迎え、いかに生きるか?をテーマにした短編集。」(中村夫人)

- 「バッタを倒しにアフリカへ」

- 著者: 前野ウルド浩太郎
- 出版社: 光文社
- ISBN: 978-4-334-03989-9
- <https://www.kobunsha.com/shelf/book/isbn/9784334039899>

「『バッタに食べられたい』と言う夢を叶えるため、アフリカで蝗害を研究するノンフィクション。著者のバッタへの愛の溢れた一冊。」(中村夫人)

- 「墨攻」

- 著者: 酒見賢一
- 出版社: 文藝春秋
- ISBN: 978-4-16-790071-7
- <https://books.bunshun.jp/ud/book/num/9784167900717>

「皆さんがよくご存知の諸子百家。その中の1つである墨子は、兼愛を説く宗教的存在とされています。しかしその実態は、防御専門の恐るべき戦闘集団でした。小国、梁から防衛を依頼され、送り込まれた革離。城を守ろうと奮闘を始める。」（中村）

- 「コンスタンチノーブルの陥落」

- 著者: 塩野七生
- 出版社: 新光社
- ISBN: 978-4-10-118103-5
- <https://www.shinchosha.co.jp/book/118103/>

「ローマ帝国の正当後継たる東ローマ帝国は、いつどのようにして滅びたのか。商人、僧侶、義勇兵などが記した今に伝わる記録を読み解き、小説家の想像力を持って状況を再構築しています。ロードス島、レパントと続く、イスラム教 vs キリスト教の戦記物三部作の1作目。」（中村）

- 「思考の整理学」

- 著者: 外山滋比古
- 出版社: 筑摩書房
- ISBN: 9784480020475
- <https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480020475/>

「グライダーは滑空するだけ、飛行機は自在に飛べる。学校教育は、グライダー人間を養成していないであろうか。著者は読者に、飛行機のように自由に考えられるような、思考法についてものがたります。ふとしたことについて、考える視点を広げてみませんか？」（中村）

2 室井さん推薦の書

室井さんの推薦する書は以下のものです。

- 「人生は20代で決まる (The Defining Decade)」

- 著者: Meg Jay
- 訳者: 小西敦子
- 出版社: 早川書房
- ISBN: 9784150504601
- <https://www.hayakawa-online.co.jp/shopdetail/000000013210/>

「アメリカの心理学者が、若者へのカウンセリング経験をもとに書いた 1 冊です。私がこの本と出会ったのは 30 代後半でしたが、自信をもってこれから生きていくためにも、大学生の皆さんにはぜひ今のうちに読んで欲しいと思います。Kindle 版、英語版もあります。」（室井）

なお、室井さんからの情報によると Youtube に関連する内容のビデオがあるそうです。

<https://www.youtube.com/watch?v=vhhgI4tSMwc>

- 「コロボックル物語(1) だれも知らない小さな国」

- 著者: 佐藤さとる

- 出版社: 講談社
- ISBN: 978-4-06-276798-9
- <https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000205509>

「コロボックルは、北海道の原住民アイヌに伝わる小人のことです。誰にでも、この人なら信頼できる、という人が1人はいるのではないのでしょうか。コロボックルは本当に信頼できる人間とだけ友達になります。60年も前に書かれたお話ですが、スタジオジブリの映画のようなワクワクするファンタジーです。全部で6巻あります。」(室井)

- 「さいごの恐竜ティラン」

- 著者: 村山由佳
- 出版社: 集英社
- ISBN: 4-8342-5031-8
- <https://books.shueisha.co.jp/items/contents.html?isbn=4-8342-5031-8>

「村山由佳さんの小説は、どれも心癒される作品が多いですが、その中でもこの1冊は、短くて読みやすい大人のための絵本です。巨大隕石の衝突によって、地球から恐竜が姿を消す最後の瞬間を生きる、恐竜の親子の物語。自分は草食恐竜なのに、敵である肉食恐竜の子供を育てる母親の無償の愛に心があたたまります。最後、もう食べるものがなくなってしまったときにとった親子の行動には、涙が出てしまうととも、親子の愛情に感動するお話です。」(室井)

- 「ブラック・ジャック(1)～(12)」

- 著者: 手塚治虫
- 出版社: 講談社
- ISBN: 978-4-06-373758-5
- <https://kc.kodansha.co.jp/product?item=0000043846>

「手塚治虫さんは日本を代表する素晴らしい漫画家です。鉄腕アトムなど代表作はいろいろありますが、私が好きな作品は、天才外科医ブラック・ジャックです。普通の医者には不可能な治療を完璧にこなしていく話は爽快です。そして、人から嫌われようとも、正義のために闘う姿に、感動し、深く考えさせられる名作です。」(室井)

3 木下推薦の書

3.1 上橋菜穂子さんの「守り人」シリーズ

「守り人」シリーズは、大学教授で作家でもある上橋菜穂子さんが書いた児童向けの小説です。易しい日本語で書いてあるので、読みやすいと思います。一方で、国と国との関係、先住民と征服民族のこと、貧富の差の問題、支配階級と被支配階級の関係、など、現代の社会問題にも関係するような深い内容も描かれているので、大人でも読み応えがあります。全部で12冊ある作品です。

- 上橋菜穂子公式サイト「木漏れ陽のもとで」(Fig. 1)
 - <http://uehashi.com/>
- 守り人シリーズ (<http://uehashi.com/book/monogatari/#obi35>)
 - 精霊の守り人
 - 闇の守り人
 - 夢の守り人
 - 虚空の旅人

- 神の守り人 (来訪編)
- 神の守り人 (帰還編)
- 蒼路の旅人
- 天と地の守り人第一部ロタ王国編
- 天と地の守り人第一部カンバル王国編
- 天と地の守り人第一部新ヨゴ皇国編
- 流れ行く者
- 炎路を行く者

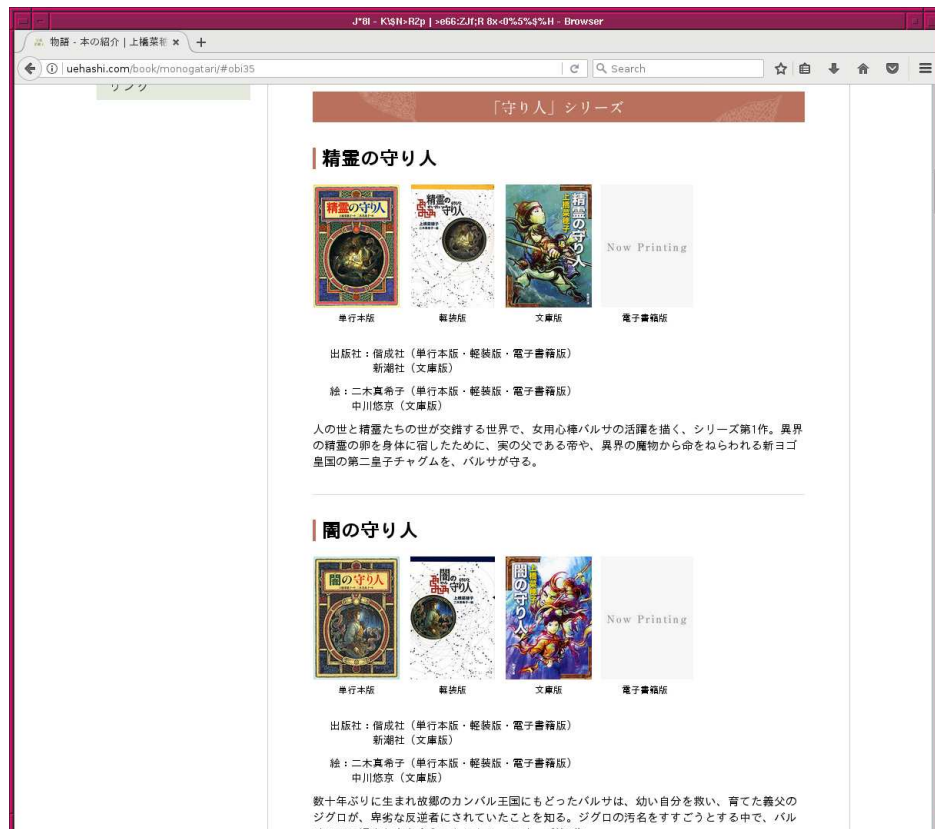


Figure 1: 上橋菜穂子さんの公式サイト「木漏れ陽のもとで」

中国語版も出版されているようなので、日本語で読むのはまだ難しいと思う人は、中国語訳を読んでみるのもよいかもしれません。

最近、「風と行く者」という新しい本が出版されました。(この本も買って読みました。)

3.2 上橋菜穂子さんの「鹿の王」

上橋菜穂子さんの「鹿の王」という本もすばらしいです。病気の原因や感染についての描写もあって、科学が好きな人はそういった面でも楽しめます。「守り人シリーズ」と同様に、征服民族と被征服民族の関係なども描かれています。他にも、国と国との関係や、政治について、家族について、など、さまざまなことを考えさせられます。

文章が多いので、根気よく読む必要があります。

これまで出版されていた「鹿の王 (上)」と「鹿の王 (下)」に加えて、去年、「水底の橋」という続編も出版されました。「水底の橋」も読んでみました。とてもよい内容です。

3.3 高橋克彦さんの「陸奥三部作」

日本の東北地方出身の高橋克彦さんによる「陸奥三部作」は、古代に東日本に住んでいた「蝦夷」という人たちが、「大和」に征服されていく過程を描いた歴史小説です。他にも、「風の陣」や「時宗」などよい作品が多数あります。

- 陸奥三部作
 - 火怨かえん
 - 炎立つほむらたつ
 - 天を衝くてんをつく
- 風の陣かぜのじん
- 時宗ときむね

高橋克彦さんの作品は、どれも、金庸の武侠小説に匹敵する(かもしれない) 素晴らしい歴史小説だと思っています。

「水壁」という本も出版されました。「水壁」も蝦夷と大和の関係についての話です。

3.4 山崎豊子さんの小説

山崎豊子さんの小説はどれも素晴らしいと思います。ただし、分量が多く、また、内容も難しいかもしれません。代表作に、以下の作品があります。

- 不毛地帯ふもうちたい
- 沈まぬ太陽しずまぬたいよう
- 華麗なる一族かれいななるいちぞく
- 白い巨塔しろいきょとう

3.5 「つばき、時跳び」

梶尾真治さんの小説に「つばき、時跳び」という作品があります。作家を目指している主人公が江戸時代に飛ばされてしまうというお話です。また、江戸時代の女性が現代にやってきたりもします。江戸時代の日本の描写がとても美しい作品です。

3.6 八木啓代さんの「パンドラ・レポート」

「パンドラ・レポート」は、音楽家であり、ジャーナリストでもある八木啓代さんによる中南米での生活を描いた文章です。八木啓代さんのウェブページからダウンロードして読むことができます。

- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-01.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-02.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-03.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-04.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-05.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-06.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-07.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-08.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-09.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-10.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-11.txt
- http://nobuyoyagi.com/PANDORA/PANDORA_REPORT-12.txt

3.7 永井明さんのエッセイ

永井明さんは医者で、50歳を超えたころから船医を何度も経験されていた方です。新聞などにエッセイを書いていました。最後の本になった「ただ、ふらふらと」に収録された亡くなる直前に書いた二つの文章が秀逸です。

- 「みえこ姐さんのパラソル」
- 「ヒロシさんの絵筆」